

13) 土蔵・コウド

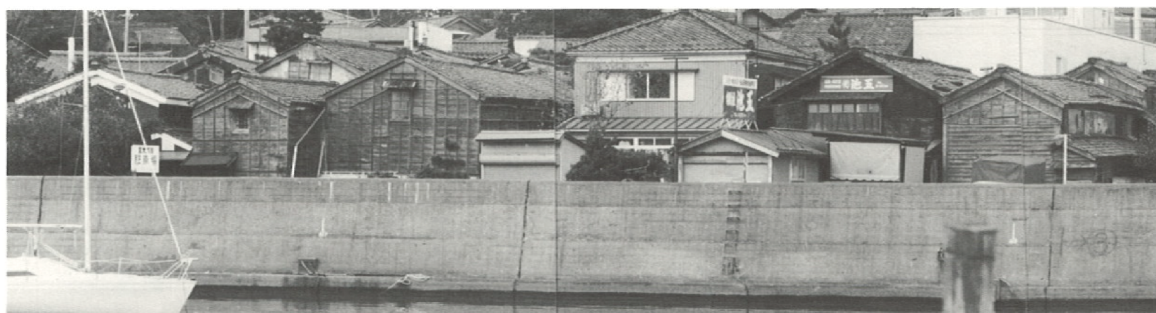
明治期までは河川沿いに土蔵が軒を連ねている町並みが形成されていました。また、土蔵と河川の間を「コウド」と呼び、笏谷石積などで整備されていました。ここは船から積み上げた荷物の通路や一時保管場所でした。私有地であるものの、伝って歩けるようになって、半ば公道として使われていた様です。しかし、海運の衰退や護岸道路の整備によって、今では多くの土蔵が壊されてしまっています。明治中期ごろからは中を居室として改造し「蔵座敷」として使われる様にもなりました。



明治時代の河川に土蔵が並んでいる様子



こうど



昭和 50 年代、河川に土蔵が並ぶ町並みがまだ残っている様子

『三国町の民家と町並』より引用

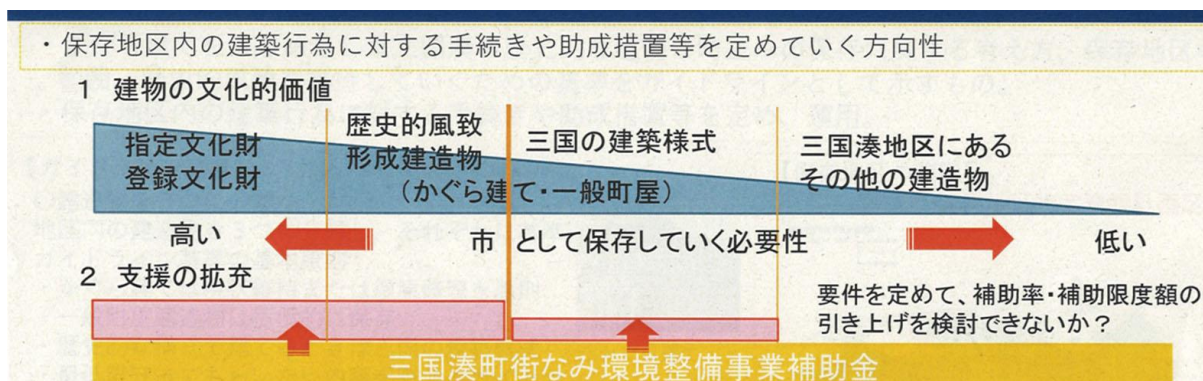
POINT

- ▶ 河川沿いに土蔵が並び、荷捌きのための場所「コウド」が設置されていた。コウドはセミパブリックな通路としても利用されていた様です。
- ▶ 護岸道路が敷設され、現在では土蔵が並ぶ町並みを確認できにくくなっています。

今後の課題

- ▶ 今後、さらに減少していくことが予想されるため、今残っている土蔵の現況の使い方調査や劣化具合を診断していくトリアージなど、保存や活用のための方策が必要です。

2. 町家の段階の説明



保存地区内の建築行為に対する手続きや助成措置を定めていく方向性として、建物の文化的価値に応じた助成支援の拡充を検討していくこととします。文化財レベルはもちろんのこと、一般的な町家に対しても要件を定めて補助率・補助の限度額の引き上げを検討していきます。また、従来はファサードの改修による町並みの景観整備に重点が置かれていましたが、建物の内部への補助も検討することで、三国湊の町家の構造や構成を残していくことができないか検討していきます。本ガイドラインでは下記のような分類を提案します。

＜分類＞	＜方針＞	＜対象＞
文化財建築	保存および復元改修を基本とする。	登録文化財・指定文化財の町家建築
三国の伝統的町家	三国湊の町家の特徴を残した保存改修を行う。	「三国の町家」に該当するもののうち、特に町並みの象徴となる建築物
三国の町家	三国湊の町家の特徴を残しつつ、町家の構成要素の保存と現代の生活様式に適応した工夫を両立する。	これまでの街なみ環境調査で町家建築として分類されたものおよびそれに類する建築物
その他の建築物	周辺との調和を保ちながら、できる限り三国湊の町並みの要素を取り入れる。	上記以外の建築物

今後の課題

- ▶ 一様な基準ではなく、建物を分類し濃淡をつけた支援の拡充の検討を進めていきます。根拠を持って建物の分類をしていくことが必要であり、そのためには文化課や都市計画課などその他の課とも共同し、調査結果に基づく一貫した価値判断基準を定めていくことが必要です。

3. 三国湊地区の町並みの特徴

三国湊の町並みはその地理的・社会的な成立の背景から、個有の特徴をもつ町並みが形成されてきました。ここでは町並みを構成する特に重要なポイントを記します。

○ 通り・屋根並みの連続性

通りに面して、壁面線・高さ・屋根勾配・小屋根や軒先がそろった建築物が並び、湊町として賑わった町並みの雰囲気を保ってきました。一方で、駐車場の設置や空き地の増加により連続性が失われている場所も増えています。



屋根並みが連続する風景



門の設置により小屋根を連続させている



駐車場の設置や空き地の増加により連続性が失われた場所もある

今後の課題

- ▶ 隣接する建築物間で屋根や小屋根の高さや勾配を合わせ、統一感のある町並みを保存することが望まれます。
- ▶ 駐車場や空地にも周囲と合わせた門等を設けることで連続性を保つ工夫ができます。そのような工夫を支援する仕組みも必要です。

○ アイストップとなるクランクや角地

川と丘の地形に沿って形成されてきた街路にはクランクや湾曲があり、それによって生じる角地は、通りを歩く人にとって遠目から望見されるアイストップとなる部分であり、通りの町並みを保存する上で重要なスポットです。三国祭の山車巡行の視点場や背景にもなりやすい場所であり、祭の伝統的な景観を保存する上でも重要です。

	
アイストップとなる建築物	街路に面する2面とも見え方に配慮している

今後の課題

- ▶ 建築物の通り前面だけでなく、アイストップとなる角地では、望見可能な側面の外観意匠も保存し、通りからの見えを意識することが大切です。
- ▶ 空地化によって自然発生的にできた新しい角地に関しては、パブリックな使い方ができるよう働きかけることも考えられます。

○ 地形に沿った坂道や路地

細長い敷地形状が連続する街路に対して、坂の上や奥へと誘うような路地空間が形成されています。特に三国神社側では、河川から丘に向かって階段や石垣、曲がりくねった坂道などが多く残っています。

	
石垣や階段	曲がりくねった坂道

今後の課題

- ▶ 安全に通行できるよう路地空間のメンテナンスを継続する必要があります。
- ▶ コンクリートの無機質なデザインではなく、笏谷石など積極的に自然素材を活用したり、既存の井戸や植栽も積極的に保存していくことで界限性のある景観を保ちます。

○ 坂の上から見える景観

坂の上から見下ろした時に、細長く伸びている町の様子が美しく見えます。棟の高さや素材が統一されていると、町の連続性がや三国のまちのまとまりを感じることができます。細長い敷地形状が連続する都市空間に対して、通風や採光を確保するために設けられてきた中庭（セド）の連続性も見ることができます。

	
瓦屋根が連続する風景を継承する	70年代の様子。中庭の連続性が見える

今後の課題

- ▶ 坂の上から見た時の統一された景観を作るためには、個々の建物が棟の高さや屋根素材を揃えることが重要です。
- ▶ 生活様式の変化に伴い敷地内の空間構成は変化し、川や丘に沿って並ぶ風景は変わりつつあります。できる限り敷地内の構成や中庭の緑空間を残すための取組が必要です。